

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 23 年 1 月 13 日 (2011.1.13)

【公開番号】特開 2008-259176 (P2008-259176A)
 【公開日】平成 20 年 10 月 23 日 (2008.10.23)
 【年通号数】公開・登録公報 2008-042
 【出願番号】特願 2008-4033 (P2008-4033)
 【国際特許分類】

H 0 4 L 25/49 (2006.01)

H 0 4 J 13/00 (2011.01)

【F I】

H 0 4 L 25/49 C

H 0 4 J 13/00 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 22 年 11 月 17 日 (2010.11.17)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

1 個から p (p は 2 以上の任意の整数) 個までのうちの q (q は 1 以上 p 以下の整数) 個のパルスに受信すべきデータが重畳されている受信信号の受信を開始したか否かを検出する受信信号検出回路と、

前記受信信号検出回路が前記受信信号の受信を開始したと判断した場合、前記 1 個から前記 p 個までのうちの r (r は 1 以上 p 以下の整数) 個を表すパルス数信号を出力するパルス数調節回路と、

前記パルス数信号の入力を受けた場合、前記 1 個のパルスと実質的に同一な波形であるテンプレートから前記 p 個のパルスと実質的に同一な波形であるテンプレートまでのうち、前記パルス数信号により表される前記 r 個のパルスと実質的に同一なテンプレートを発生するテンプレート発生回路と、

前記受信信号中の前記 q 個のパルスと、前記発生された、前記 r 個のパルスと実質的に同一なテンプレートとの間の相関の度合いを判断する相関判断回路と、を含み、

前記相関判断回路は、前記相関の度合いが大きいと判断した場合、前記受信信号の同期を捕捉することができたと認識し、

前記相関判断回路が、前記相関の度合いが小さいと判断した場合、前記パルス数調節回路は、前記 r 個に代えて、前記 1 個から前記 p 個までのうちの s (s は 1 以上 p 以下の整数) 個を表すパルス数信号を出力し、かつ、前記テンプレート発生回路は、当該 s 個のパルスと実質的に同一なテンプレートを発生することを特徴とする受信装置。

【請求項 2】

更に、前記相関判断回路が、前記受信信号中の前記 q 個のパルスと、前記発生されたテンプレート中の前記 s 個のパルスとの相関の度合いが大きいと判断したときにおける、当該 s 個を記憶する記憶回路を含み、

前記受信信号検出回路が、前記受信信号の後に異なる受信信号の受信を開始したと判断した場合、前記パルス数調節回路は、前記 r 個を表すパルス数信号を出力することに代えて、前記記憶回路に記憶されている前記 s 個を表すパルス数信号を出力することを特徴とする請求項 1 記載の受信装置。

【請求項 3】

1 個から p (p は 2 以上の任意の整数) 個までのうちの q (q は 1 以上 p 以下の整数) 個のパルスに受信すべきデータが重畳されている受信信号の受信を開始したか否かを検出する受信信号検出工程と、

前記受信信号検出工程が前記受信信号の受信を開始したと判断した場合、前記 1 個から前記 p 個までのうちの r (r は 1 以上 p 以下の整数) 個を表すパルス数信号を出力するパルス数調節工程と、

前記パルス数信号の入力を受けた場合、前記 1 個のパルスと実質的に同一な波形であるテンプレートから前記 p 個のパルスと実質的に同一な波形であるテンプレートまでのうち、前記パルス数信号により表される前記 r 個のパルスと実質的に同一なテンプレートを発生するテンプレート発生工程と、

前記受信信号中の前記 q 個のパルスと、前記発生された、前記 r 個のパルスと実質的に同一なテンプレートとの間の相関の度合いを判断する相関判断工程と、を含み、

前記相関判断工程は、前記相関の度合いが大きいと判断した場合、前記受信信号の同期を捕捉することができたと認識し、

前記相関判断工程が、前記相関の度合いが小さいと判断した場合、前記パルス数調節工程は、前記 r 個に代えて、前記 1 個から前記 p 個までのうちの s (s は 1 以上 p 以下の整数) 個を表すパルス数信号を出力し、かつ、前記テンプレート発生工程は、当該 s 個のパルスと実質的に同一なテンプレートを発生することを特徴とする受信方法。